

Facebookで紹介 森林との共生に向けた取組

県は、森林に関心を持つ皆さんと、Facebook「ふじのくに森林の都しずおか」でつながっています。令和3年度は、県内各地で行われている森林との共生に向けた204件の記事を発信し、閲覧数は8.5万件となりました。



Facebook「ふじのくに森林の都しずおか」

○発信した主な記事

発信日	内容	場所
4月12日	「ふじのくに森の防潮堤づくり」の進捗を紹介します	磐山市他
18日	ニホンジカをエサで誘引して捕獲～竹内式誘引捕獲法の紹介	全県
23日	森林組合おおいがわが大型トラック(10t積)規格の作業道を開設	川根本町
5月18日	浜松市天竜区の横山小学校で森林教室を開催	浜松市
19日	しいたけ生産者2名を名誉指導林家に認定	伊豆市
21日	ナラ枯れ対策－カシノナガキクイムシ3万匹捕まえる方法教えます	全県
24日	三島市が県産材を利用した休憩所を設置	三島市
31日	「森の力再生事業」実施箇所で広葉樹を植栽	磐田市
6月1日	オグシズ材を使用した観光スポットが用宗に誕生	静岡市
2日	今井保隆氏へ緑化功労者感謝状の贈呈	静岡市
4日	島田市に市産材を使用したコワーキングスペース「C-BASE」がオープン	島田市
7日	「森の力再生事業」の作業現場で安全点検を実施	浜松市
11日	治山バトロールで治山施設を点検	全県
14日	高校生がデザインした天竜材 PR 用ロゴマークの普及活動	浜松市
17日	県猟友会副会長兼富士宮猟友会会長の風岡正則氏が自然保護知事褒賞を受賞	富士宮市
21日	山菜の放射性物質検査を実施し安全性を確認	富士市他
7月1日	県産材をふんだんに使用した「ターゲットクルこども館」がグランドオープン	焼津市
2日	NPO法人しずおか環境教育研究会が「みどりの日」自然環境功労者環境人臣表彰を受賞	静岡市
4日	土屋正之氏が令和3年度自然保護知事褒賞を受賞	沼津市
14日	森の力、着実に再生中	伊豆の国市
16日	急峻な造林地をドローンで測量	島田市
22日	「森原ふるさとの森」で子どもたちが自然体験	牧之原市
8月11日	撮影画像から丸太の寸法を計測する「丸太検知アプリ」の現地研修会を開催	藤枝市他
14日	NPO法人猪之頭振興協議会らによる取組が「森林サービス産業」モデル地域に選定	富士宮市
31日	県立田方農業高等学校で林業出前講座を実施	函南町

発信日	内容	場所
9月21日	現代の美しい木造建築 Best10 に「このはなアリーナ」がランクイン	静岡市
23日	県立浜松湖北高校佐久間分校で天竜フォレスト・ガイドスを開催	浜松市
30日	修善寺ニュータウン自治会が伊豆の原木しいたけを学習	伊豆市
10月7日	三保松原の自然を紹介する3種類の冊子を発行	静岡市
14日	森林環境教育のリーダーとなる「静岡県森林環境教育指導者」を育成中	全県
28日	iPad Pro を使った森林計測アプリ活用講習を開催	藤枝市
29日	航空レーザ計測データの活用に向けたワークショップを開催	藤枝市
11月6日	オール静岡県産を日指しているウィスキー蒸留所の紹介	静岡市
13日	鳥獣保護管理員の鈴木國之氏が自然保護功労者表彰を受賞	川根本町
16日	「ターゲットクルこども館」で森林県民円卓会議を開催	焼津市
24日	林業用路網設計ソフト FRD の勉強会を開催	藤枝市
12月15日	清水銀行磐田支店にあるオグシズ材の棚とイスの紹介	磐田市
16日	富士市内に富士ヒノキを使ったサイクルステーションがオープン	富士市
17日	第32回静岡県生しいたけ品評会を開催	藤枝市
18日	富士市内で林業体験会「柚人体験」を実施	富士市
23日	林業先端技術展示会&低コスト主伐・再造林成果報告会を開催	静岡市
28日	林建協働と欧州型作業道の研究会開催	浜松市
29日	富士地区林業研究会が間伐見学会を実施	富士市
1月8日	龍山町瀬尻の治山工事が完成	浜松市
17日	作業者の負担軽減や安全確保に繋がる多目的造林機の講習会を開催	島田市
18日	大型ドローンによる被害対策資材の運搬講習会を開催	川根本町
2月4日	「富士山ヘルスツーリズム」モニターツアーワークショップを開催	富士宮市
6日	VRを使った林業安全講習会を開催	沼津市
27日	「県産材製品販路開拓事業」を活用した製品の紹介	浜松市
3月7日	選手村ビレッジプラザ提供木材レガシー利用アイデア募集 表彰状を授与	全県
12日	県民サービスセンターが県産材を利用しリニューアル	静岡市



浜松市天竜区の横山小学校で森林教室を開催 (5/18)



県産材を利用した休憩所を設置 (三島市川原ヶ谷、5/24)



高校生がデザインした天竜材 P R 用ロゴマークの普及活動 (浜松市天竜区 6/14)



静岡県産材をふんだんに使った「ターントクルこども館」がグランドオープン (焼津市栄町、7/1)



森の力、着実に再生中 (伊豆の国市長瀬、7/14)



県立田方農業高等学校で林業出前講座を実施 (田方郡函南町塚本、8/31)



富士地区林業研究会が間伐見学会を実施 (富士市大淵、12/29)



作業者の負担軽減や安全確保に繋がる多目的造林機の講習会を開催 (烏田市川根町、1/17)

森林との共生に取り組む人

複合経営を実践する林業家

えんどう まこと
遠藤 誠さん（富士宮市）



富士山麓において、自己所有林に加えて、地域の森林所有者から受託した森林の計画的な施業や、流入水に配慮した作業路開設など、環境と経済が調和する持続可能な林業経営に、ギンナン栽培や養蜂業を加えた山村地域の活力維持を目指す複合経営を実践しています。都市住民に、自然体験や食文化に触れる場を提供し、地域の賑わいも創出しています。

こうした取組により、令和3年度全国林業経営推奨行事で農林水産大臣賞を受賞されました。

農山村地域の活性化を目指す指導林家

しむら きよし
志村 清さん（静岡市葵区）

静岡県椎茸産業振興協議会の副会長などを歴任し、若手生産者への技術指導、しいたけの菌打ち体験イベントの企画を行うなど、しいたけ産業振興に取り組んでいます。

また、「しいたけ狩り」や「ほだ木オーナー制度」など、農山村地域の活性化を目指した新たな取組に挑戦しています。

こうした取組が評価され、令和3年度に指導林家に認定されました。



認定NPO法人しずおか環境教育研究会（エコエデュ）のプログラムクリエイター

しばさき ちかこ
柴崎 千賀子さん（静岡市駿河区）



子ども達の自然体験や、森づくり団体への安全研修会など、多彩なプログラムを提供しています。

「教える」のではなく「気づく力を引き出す」「答えは自分で探す」ことを、いつも大切にしています。

「ちかりんは教えてくれない」と口を尖らせる子ども、自分で発見すると「これ、見てみて!」と。里山の教育力を最大限活かす挑戦をしています。

3 令和3年度の各施策の評価

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ木材生産量や県産材製品出荷量は、需要拡大を受け、以前の水準まで回復しましたが、森づくり活動等には依然として影響が残っています。主伐・再造林の促進等の課題があるものの、森林の整備・保全に関する施策は概ね順調に進んでいます。

[基本方向1] 森林資源の循環利用による「森林との共生」 ～森林資源の循環利用による林業の成長産業化～

基本的な施策 1-1 県産材の安定供給体制の確立

指標	実績()は速報値					目標
	H29	H30	R元	R2	R3	R3
木材生産量 (万m ³)	46.3	45.3	47.6	42.1	45.2	50.0
効率的な森林整備を実現する路網の延長 (累計) (km)	4,110	4,397	4,680	4,930	R4.9 公表	5,030
再造林面積 (ha)	155	157	158	172	R4.9 公表	500
優良品種 (エリートツリー) で発芽可能な種子の生産量 (万粒)	-	11	29	43	23	154
世界基準の認証取得森林面積 (累計) (ha)	64,864	66,798	71,059	72,536	R4.6 公表	70,000

木材生産量



※目標の考え方

県内の人工林の年間成長量の約 5 割を基準に適正な木材生産量を算定。



丸太検知アプリの現地研修会 (富士宮市北山)

《評価》

ウッドショックと称される状況が追い風となり、「木材生産量」は前年から 3.1 万m³ 増加しましたが、前年に一時的に減少した木材需要に対して林業経営体などが生産調整などで対応していた影響が残り、生産現場では十分な供給ができず、目標には届きませんでした。需要変動にも対応できる安定供給体制の構築が必要です。「再造林面積」は徐々に増加しているものの、森林所有者などの採算性や獣害への不安解消などが進まず、主伐・再造林の促進が大きな課題となっています。「世界基準の認証取得森林面積」は目標を前倒しで達成しましたが、今後も森林認証材の需要の高まりへの対応が必要です。

《改善》

需要変動に対して森林認証材などを迅速に供給するため、いつでも伐採できる木材生産フィールドを確保し、中・長期的な木材生産計画を作成して、基盤整備や森林認証の取得を進めます。また、主伐・再造林の収益性を高め、森林所有者などの主伐意欲を喚起するため、生産・育林コストの一層の縮減と木材生産計画の作成や現場管理における労務負担の軽減を図る林業イノベーションを推進します。加えて、平成 30 年度から 3 年間かけて取り組んできた低コスト主伐・再造林の実証林における検証結果を取りまとめた手引書などによる成果の普及や、エリートツリー苗木の生産体制の確立に取り組みます。

基本的な施策 1-2 ビジネス林業の定着

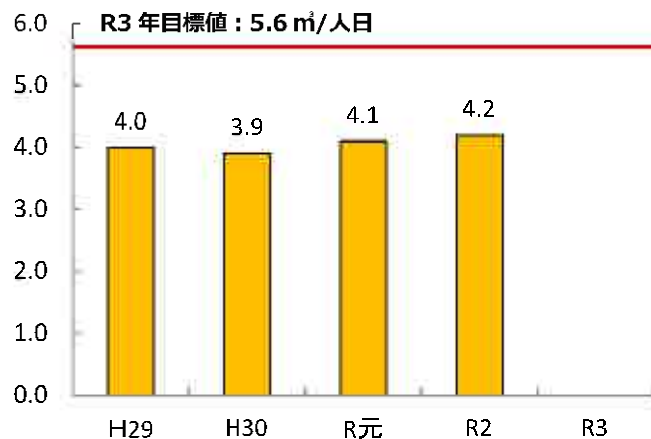
指 標	実 績					目 標
	H29	H30	R 元	R2	R3	R3
木材生産の労働生産性 (m ³ /人日)	4.0	3.9	4.1	4.2	R4.7 公表	5.6
ビジネス林業*の定着を図る事業体数 (累計) (事業体)	23	33	27	20	R4.7 公表	60
適正な森林管理を担う森林技術者 (林業作業士) 数 (累計) (人)	534	544	529	536	(529)	500
林業への新規就業者数 (人)	81	67	71	81	61	100

*ビジネス林業 需要に応じた計画的生産や、山元還元を増やす生産性の向上、需要者への直送販売を経営に取り入れ、安定的に木材を供給する林業経営。

木材生産の労働生産性

R4.7 公表 m³/人日 [目標 5.6 m³/人日]

(m³/人日)



※目標の考え方

主伐・間伐により、森林所有者へ一定額の還元ができる労働生産性を目指す。



LPWA を用いた通信手段による情報共有訓練
(川根本町東藤川)

《評価》

「木材生産の労働生産性」は向上しているものの、目標は達成していません。効率的な生産システムの導入や林業経営体の経営改革などを進める必要があります。「適正な森林管理を担う森林技術者数」は目標の500人以上で推移していますが、各市町の森林環境譲与税による森林整備事業の増加が見込まれることから、継続的に育成していく必要があります。「林業への新規就業者数」は、例年を下回っています。就業情報や林業の魅力を、より効果的に発信していく必要があります。

《改善》

デジタル技術を活用した効率的な生産システムの導入や林業経営体の経営改革など、課題に応じた研修会を開催します。

国の就職支援制度と連携して、基礎技術研修やICT等の新技術活用研修などを実施します。

林業就業支援サイトやSNSを活用した就業相談窓口を広く周知するとともに、移住希望者等に向けた就業相談会への参加や高校での出前講座を通じた若年層への働きかけ、県立農林環境専門職大学と連携した学生への就業支援などを行います。

基本的な施策 1-3 県産材製品の需要拡大

指 標	実 績					目標
	H29	H30	R 元	R2	R3	R3
品質の確かな県産材製品出荷量(万m ³) (しずおか優良木材*またはJAS・JIS製品の出荷量)	10.3	10.4	10.6	9.7	9.9	11.0
公共部門の県産材利用量 (m ³)	22,852	21,765	21,602	21,170	21,702	21,000

*しずおか優良木材：品質・寸法・乾燥・強度について、定められた基準を満たしていることが認証された木材。

公共部門の県産材利用量

21,702 m³ [目標 21,000m³]

※目標の考え方

公共建築物等木使い推進プランにおいて、建築物の目標単位利用量や整備実績等を勘案して定めた利用量。



県産材を使用した日本平夢テラス（静岡市清水区）

《評価》

外国産材から国産材への転換の動きが顕著となりましたが、製材工場などは、価格の高騰により、丸太の調達が進まなかったことで、「品質の確かな県産材製品出荷量」は目標に達していません。今後も、品質の確かな製品の需要に応じた安定的な供給が必要です。「公共部門の県産材利用量」は、公共施設整備や公共土木工事での率先利用に積極的に取り組み、目標達成を続けています。SDGsの推進やカーボンニュートラルの動きによる都市部での木材利用の機運を捉え、民間での取組も更に広げていく必要があります。

《改善》

県産材製品の供給能力を高めるため、木材加工施設の整備を支援するとともに、製材、合板工場が必要とする丸太の供給を支援します。

令和4年3月に策定した、ふじのくに公共建築物等木使い推進プランでは、公共部門での県産材利用の目標値を引き上げており、率先利用に取り組むとともに、民間部門の県産材利用を促進します。

住宅分野における品質の確かな県産材製品の利用を拡大するため、住宅助成制度を拡充し、住宅施工者などの新規参入や県産材を利用した家づくりの選択肢を拡大します。

脱炭素社会の実現に向けて取り組む民間企業など、非住宅分野における新たな県産材需要を獲得するため、非住宅建築助成制度の拡充、構造設計者向けのカレッジの開催、JAS 製品の供給体制の強化などに取り組みます。